



「佐々木さんを支援する会」会報

ウブムエ

事務局 〒235-0041横浜市磯子区栗木1-22-3 / TEL 045-774-9861洋光台
バプテスト教会内(蛭川明男牧師) / 世話人代表 金子 敬
事務局長 吉高 叶(栗ヶ沢バプテスト教会 TEL 047-341-9459)

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

巻頭言

吉高 叶

よしたかかのう

世話人会メンバー
栗ヶ沢バプテスト教会牧師

「佐々木さんを支える会」のみなさま。
こんにちは。新しい年度の歩み、いかがですか。いつもルワンダの和解の働きのために、そして佐々木さんご一家の取り組みのために、ご支援をいただきありがとうございます。佐々木さんは、やっと労働ビザを取得され、果敢に、そして本格的にREACHの働きを進めておられます。

さて、2月に映画『ホテル・ルワンダ』を観てきました。当初、日本では上映する予定の無かった映画でしたが、一握りの人々の熱意によって上映が実現し、しかも、わずか1～2週間に限ってという予定でしたが、大きな反響を呼んで、今もロングラン上映を続けています。毎回、整理券を発行するほど盛況で、嬉しいことにたくさんの若者たちがこの映画を観にきているようです。

映画の中には、残酷な殺戮シーンはあまり出てきません。けれども、観ていて震撼させられます。憎しみの対象への侮蔑、撲滅の正当化、扇動と人々の高揚、そうした中で、大量虐殺はいとも簡単に起こってしまいますし、誰もが人を殺してしまうだろうと、そのことが実に恐ろしいです。あわせて、虫けらのように殺

されてしまう「いのち」の軽さやはかなさ、それも震えるほど恐ろしかったです。

1994年、ルワンダ。あの時、私たちが気づかず、世界が目目を伏せた恐るべき真実に、遅ればせながら目を向け、人間の弱さと残酷さを直視し、痛み、嘆き、そして悲しむことの大事を憶えます。

「もし、あの時、あそこに自分がいたら？」 殺してしまったかもしれない自分がそこに居、殺されてしまったかもしれない自分がそこに居ます。そして、「殺したであろう私」は、罪を告白しなければなりませんし、生きていくためには赦されるしかないのです。あるいは、「殺されたであろう私」は悼まれなければなりませんし、繰り返さないために記憶されなければならないのです。そうです。まさしく、ルワンダの赦しと和解は、私のためのものでもあるのです。フツの人々も、ツチの人々も、そしてそこにいたなら殺し、殺されることになる私たち全ては、「赦しと和解」に共に与っていくしかないのではないのでしょうか。

ルワンダの平和と和解の働き、それは、全ての存在が招かれなければならないテーマなのだと思います。



佐々木和之

ささきかずゆき

出会いを積み重ねていくこと

新規プロジェクトを立ち上げていくにあたり大切にしていきたいと思っていることは、既に和解への道を歩み始めている人々との出会いを積み重ねていくことです。

■ムラーホ！（こんにちほ！）

このお便りが皆さんに届く頃には、日本各地がすっかり春らしくなっていることでしょう。ここルワンダの首都キガリは、2月中旬から雨期に入り、朝夕にはかなり肌寒い日が多くなっています。早いもので私がルワンダに赴任してから半年、家族が到着してから3ヶ月になります。ルワンダの高地環境への適応、マラリアの予防、停電や断水をはじめ生活上の様々な不便さに慣れること、そして、現地の言語や文化を学んでいくことなど課題は沢山ありますが、家族5人と犬1匹（名前はクッキー）、皆元気に過ごしています。

■労働許可をようやく取得！

数名の知人から、この種の手続には気の遠くなるような時間がかかると聞いていたので、それなりの覚悟はしていました。しかし、これほどまでに忍耐を強いられることになるとは想像していませんでした。ルワンダでは、NGOで働く外国人の労働許可取得手続きの窓口には地方政府省がなっています。しかし、この地方政府省が「ある事情」により大忙しで、ここ数ヶ月、通常業務がほぼ一時休止状態になっていました。

「ある事情」とは、全国一斉に行なわれた地方行政の大合併のことです。日本でも「平成の大合併」が進行中とのことですが、ルワンダの大合併の規模は日本のそれをはるかに凌ぐものです。県、郡、村、集落という、ルワンダにある行政区分の全レベルで同時に合併が行なわれたからです。ちなみに、それまであっ

た12の県が5つになりました。地方政府省の役人の多くは、この「国家的大事業」の調整業務に追われ、その他の業務がおさなりにされてきたというわけです。

労働許可とそれに付随して交付される滞在ビザが取得できないと、外国からの移住者に一時的に与えられる「免税特権」を得ることができず、海外から持ち込んだ荷物に莫大な税金が課されてしまいます。私の場合は、イギリスからコンテナに詰めて送った家財道具、衣類、書籍等の一切が、12月に到着してからの約4ヶ月間、税関の倉庫で差し止められたままになっています。また、現地のディーラーを通して購入した四輪駆動車も、同様の理由により使うことができずにいます。これらのことから日常生活の面でも活動の面でも不自由を強いられてきましたが、3月末にようやく労働許可を取得することが出来ました。まだ滞在ビザの取得手続が残っていますが、おそらく4月中にはコンテナ荷物と活動車両を手に入れることが出来そうです。これで新しいプロジェクトの立ち上げに本格的に取り組み始めることができます。これまでのお祈りをありがとうございます。

■「癒しと和解セミナー」に参加

活動ハイライトの一つとして、REACHが11月下旬から12月下旬にかけて実施した計三回の「癒しと和解セミナー」のうち二つに参加した時のことをご報告します。将来的には講師の一人として参加するようと言われていますが、まずは現在行なわれているセミナーの内容と手法をじ

じっくり観察し改善点を提言することが、現時点での私の役割です。東部県 (Eastern Province - ウムタラ県とキブンゴ県、そして、キガリングリ県の一部が合併してできた県) のブゲセラ郡ンゲンダで実施された三日間のセミナーには、地域のキリスト教各派から派遣された牧師、司祭、信徒リーダー、イスラム教の代表者、地方政府の代表者等、計53名 (男性47名、女性6名) が参加しました。一方、東部県の県庁所在地ルワマガナで実施された三日間のセミナーは、地域のキリスト教各派に連なる63名の女性 (特にジェノサイド/集団殺戮の生存者である女性達とジェノサイドの加害者を家族に持つ女性達) が対象でした。

今回これらの地域で行なわれたセミナーは、三回シリーズの第一回目で、ルワンダの歴史を学びながら、どの様にして国民の間に分断が深まり、暴力紛争が引き起こされるに至ったのか、また、ルワンダ紛争における教会の責任について省察することに重点が置かれました。現地社会の分断と対立が深刻化するうえで重要な役割を果たしたとされる、ベルギー植民地政府による分断統治に加担してしまったという罪。独立後には、フツ至上主義を掲げた独裁政権におもねり、国家による様々な不正義に対して沈黙してき罪。また、「フツ」か「ツチ」かといった偏狭な集団アイデンティティーをなかば絶対視し、結果的に様々なレベルでジェノサイドに関与してしまったという罪。ルワンダの教会、そしてそれに連なるクリスチャンが、この様な罪を犯してきたこと。今回のセミナーの焦点は、ルワンダ紛争の背後に、これらの罪があったことを学び、それらを主体的に告白することでした。それは、参加者一人ひとりにとって大きな痛みを伴うプロセスであったと思います。しかし、和解への長い道のりを歩んでいく彼・彼女らにとって、欠かすことのできないプロセスであると思われました。



癒しと和解セミナーの一こま

■ ロランスさんとの出会い

ロランスさんは、私がREACHのセミナーで出会った、ジェノサイド生存者の女性です。セミナーの最終日に、参加者の心の中にある思いを分かちあう時間がありました。彼女はまず、ジェノサイド当時の逃避生活と家族喪失の体験について語りました。そして、虐殺犯として刑務所に拘留されていた男性のために食糧の差し入れを続けたという自らの体験について語ったのでした。

夫と13人の子ども達をジェノサイドで殺されたという彼女が、どの様にして刑務所を訪ねるようになったのか、セミナーの数日後に彼女の家を訪ねて話を聞きました。彼女によるとそのきっかけは、一人の囚人が裸で刑務所に繋がれている夢を見たことでした。その夢がどうしても頭から離れず、次第にそれが神様からの呼びかけであると理解するようになったということでした。そして、虐殺の容疑者が収容されている刑務所を訪ね、同じ村出身のある男性のために食糧の差し入れを始めたのでした。

ロランスさんが差し入れを続けた男性は、高齢かつ病弱であるとの理由から、二年前に仮釈放で村に帰ってきました。(彼を含め、彼の村でジェノサイドに加担したとされる人々への判決は、やがて「ガチャチャ」と呼ばれる民衆法廷から言い渡されることになっています。) 彼女は、14人の子ども達の中でたった一人

生き残った娘と暮らす自分の家で、その男性が住居を見つけるまでの間世話をしたとのことでした。その男性は今も何かあると彼女を頼って訪ねてくるそうです。

彼女のこの行動は、地域社会に大きな波紋を呼び起こしました。特に近隣のツチ系住民からは裏切り者扱いされ、ジェノサイドの生存者が結成している互助会からも締め出されてしまったのです。そのため、会員であれば享受できる政府からの援助も受けることができないとのことでした。

それでは、彼女はフツ系住民には仲間として受け入れられているのでしょうか？彼女は決してそうではないと言いました。多くのフツ系住民にとって、彼女は自分達の親類縁者を殺人犯として糾弾する敵側の人間でしかないとのことでした。そればかりか、彼女が差し入れを続けた男性さえも、ジェノサイド当時のことについては未だに沈黙を続けていると言うのです。にもかかわらず彼女は、自分のとった行動を後悔していないと言いました。自分はそれを神様の導きと信じて行い、そのことによって心に平安を得た、だからそれで良いのだと言うのです。

今回このお便りを書くにあたり、私は、現時点でこのロランスさんのことを皆さんにお伝えすべきかどうか、実を言うとすいぶん迷いました。私自身、まだ彼女がこれまでどの様な困難や葛藤を経て生きてきたのか、また、彼女を取り巻く状況についても十分に理解しているとは言いがたいからです。そして、私自身、彼女のこれまでの行動をどう受け留めていいのか戸惑いを持っているからです。しかし、あえてこのことを書くことにしたのは、ルワンダで私たちの理解を超える事柄が起きているということ、皆さんに知って頂きたかったからです。それは、私達から隠れたところで、いえ、多くのルワンダ人からも隠れたところで起きているのです。



REACHが支援する女性グループのメンバーと

■新規プロジェクトの立ち上げに向けて
ガチャチャ民衆法廷によるジェノサイド裁判の進捗に伴い、虐殺に加担した加害者の多くが出身の村や町に戻り、地域奉仕をしながら残りの刑期を努めることになることは、『ウブムエ』No. 2でお伝えしたとおりです。彼・彼女らの地域社会への「再統合」(reintegration)が、ルワンダ国民の和解のプロセスにとって大きな課題として考えられているのです。その課題に応えるためにどのような活動を立ち上げていくのか、REACHのスタッフ達と共に検討を始めています。これまで、政府関係者、平和構築分野で活動するいくつかのNGO、また宗教各派の地域レベルの代表者の方々と、新規プロジェクトの内容について意見交換をしてきました。今後は、ジェノサイドの生存者と自らの罪を認めて仮釈放になっている加害者の双方から、直接彼らの意見を聞いていく予定です。

新規プロジェクトを立ち上げていくにあたり大切にしていきたいと思っていることは、既に和解への道を歩み始めている人々との出会いを積み重ねていくことです。私はこれまでの経験から、ルワンダの村々に、数は多くなくても既に和解への道を歩み始めている人々がいることを知っています。その人達と出会い、彼・彼女らが既に始めていること（もしくは、始めようと考えていること）を側面

から支援していくことが理想であると思います。そのためには、今回皆さんにお伝えしたロランスさんの様な人々と出会い、時間をかけて彼・彼女らとの関係を深めていくことが必要です。そうでなければ、外部の者が机の上で計画した押し付けプロジェクトになってしまうからです。

皆さんの温かいご支援とお祈りを感謝いたします。活動が軌道に乗るまでにはまだかなりの時間が必要ですが、どうか続けてご支援をよろしくお願い申し上げます。どうかくれぐれもお体に気を付けてお過ごし下さい。

完

3ヶ月が過ぎたいま

皆さんをはじめ、多くの方々のお祈りに支えられていることを日々感じつつ過ごしてきました。祈りの力は本当に大きいんですね。

ささき めぐみ
佐々木 恵



●ルワンダの学校生活●

ルワンダの生活も、三ヶ月が過ぎました。子供たちもすっかり学校になれ、朝6時起床、夜9時就寝のリズムも家族に定着しつつあります。一番ハッピーに学校生活を送っているのは共喜（ともき）です。特に、ルワンダ語の授業は彼の「めっちゃ楽しみ」な授業だということです。

先日、先生が、「知りたいルワンダ語がありますか？」というので、「あなたのフライドポテトはおいしい。」という言い方を教えてもらったそうです。家の番をしてくれるルワンダ人の男性・ヴィエナが作ってくれるフライドポテトが本当においしくて、子供たちの大人気なの

ですが、共喜は、そのことをヴィエナに伝えたかったようなのです。

「イフィリテ ザーウェ ジラジョー シェ！」今のところ、共喜のルワンダ語の上達が一番早いようです。

すっかりクラスの友達に溶け込んでいるのは仁です。迎えに行くと、必ず何人かの友達と楽しそうに遊んでいます。彼は、友達を作ることにおいては、本当に優れた才能を持っているようです。肌の色や国籍を超えて、相手を一人の人としてみるということは当たり前のことですが、実際はなかなか難しいように私には思われます。子供たちが、こうして友達と自由に遊ぶ姿は本当に嬉しいことです。

萌は、帰宅後、日本からの通信教育の勉強を頑張っています。肝心の学校のほうは、「板書ばかりが多くてつまらない。」と不満気です。気の合う友達できてからは、大分楽しくなってきたようですが、授業に対しての不満は変わりません。その分、通信教育のほうで頑張っていて、日本での勉強をキープしておきたいと思っているようです。

●高校生からのプレゼント●

さて、先日日本から、大きな箱で荷物

が届きました。中味は、昨年の春に和之が訪問した北陸学院中学校の生徒さんが作ったパッチワークの壁掛けです。たまたみ三畳分はあろうかという大作ですが、中学生一人一人が作った平和のメッセージ入りの布が繋ぎ合わされたものです。

初めて見たこの色とりどりの布で繋ぎ合わされた作品は、中学生一人一人の個性が集まって、一つの和を生み出しているすばらしいものでした。先週、このパッチワークをREACHの事務所に運んで、壁にかけました。天井から下げても高さが足りないほど、下はだぶついていましたが、殺風景な和之のオフィスがとても明るくなりました。さっそく、REACHの総主事フィルバートに披露すると、彼もこの作品を見て、中学生の思いに感激しているようでした。

この作品の中央には、いろんな肌の色をしたいろんな国の人が手を繋ぎあって地球の上に立っている絵がデザインされています。国と国、民族と民族、宗教と宗教による対立を乗り越えて、この絵のように人と人が手を取り合えたら本当にすばらしいのに・・・と思われました。私たちもまたこの絵のように、お互いの中にある色々な違いを受け入れて、手と手を取り合うものでありたいです。



●ジェノサイドミュージアム●

先日ジェノサイドミュージアムにはじめて行ってきました。ミュージアムは、ジェノサイドの歴史的・政治的因果関係

が分かりやすく説明され、設置されているテレビでは、虐殺生存者の証言を聞く事ができます。その中で、インターナムウェ（もともとは、当時の政府与党によって組織された自衛団ですが、ジェノサイドの時には大虐殺の先鋭部隊になりました）に殺されかけた女性の語っていた言葉が心に残っています。

ツチ族抹殺のために殺人部隊が組織され、ツチ族に対する攻撃が始まったのですが、その時、今まで隣同士で生活していた人たちが、自分を襲う人たちに変わっていったというのです。しかし、そういう状況の中でも、自分を守ろうとしてくれたフツ族の隣人もいたというのです。「5パーセントの人は本当にいい人で、もう5パーセントの人はどっちつかず、そして残りの90パーセントの人たちは悪魔だった。」（実際の数字がどうだったかは分かりませんが）彼女はそのときの事を振り返ってこう証言していました。

自分が殺人に加担しなければ、その人もツチ族とみなされて殺されかねないという状況の中で、いったい自分は、どういう行動をとろうとするのでしょうか？

最初の5パーセントに入れるのか？それとも90パーセントの中に入ってしまうのか？最初の5パーセントに入るという自信は、悲しいけれど持ち合わせていません。せいぜい真ん中の5パーセントに留まって、自分を悪魔に引き渡すのを誤魔化そうとするのが精一杯のような気がしました。しかし、確かに最初の5パーセントに留まった人たちがいたのです。

先日、マリアさんという女性が和之を訪ねてうちに遊びに来てくれました。彼女は、ジェノサイドによる孤児（彼女らの多くは既に青年になっています）の精神的サポートの必要を感じていて、そのことに自分の時間をさいている方です。実は、後で知ったことですが、彼女自身はフツで、ツチの子供をかくまっていたために、自分のお父さんに殺さ

れなかったと言うのです。ルワンダにきてから、私はまだ、こういう方から直接話を聞く機会は持っていませんが、和之を通して、私たちに希望を与えてくれる方々の存在を聞いています。そういう方々とであり、その方々を通して学んでいけたら、と思わされています。

● 3ヶ月が過ぎた今 ●

「最初の3ヶ月は必ず落ち込みます。どうぞそのことを覚えてお祈り下さい。」

去年、私の所属するバプテスト連盟の女性大会のときに、会衆の方々をお願いしたことです。さて、ここに来て、3ヶ月が過ぎましたが、今までで皆さんをはじめ、多くの方々のお祈りに支えられていることを日々感じつつ過ごしてきました。祈りの力は本当に大きいのですね。実は、和之と一緒にルワンダに行くことは、最初私にとって精神的にも信仰的にも大きな負担だったのですが、今ではその負担が感謝に変わりました。和之がここで働けるようになったことを通して与えられた恵と感謝しています。

皆さんのお祈りに支えられてこの3ヶ月はひどい落ち込みもなく過ごすことができました。始めの一ヵ月半は、マラリア予防薬の副作用で、めまいや吐き気に悩まされ、外出もままならないというかんじでしたが、服用をやめてからは、すっかり体調も回復しました。新しい国に行く、いつも始めの3ヶ月はどこにも出

かける自信がなく、家にいることが多い私でしたが、ここではすでに一人でいろいろなところに出かけられるようになっています。うちから東の方向に歩いて15分のインターネットカフェ、子ども達の通う学校へは北に徒歩20分、最寄りの郵便局へは西に徒歩15分（ルワンダにはポストがありません）。今はこれに、郵便局からさらに北に15分のところにあるプールも行動範囲に加わりました。もちろん、これらの所に行くのには乗り合いタクシーもおおいに利用しています。

さて、念願のルワンダ語の学びがいよいよ始まりました。週に二回、2時間ずつ、教員養成大学で学んでいる学生さんに教えていただいています。今まで単に音として耳にしていたルワンダ語が、少しずつ意味を持った言葉として耳に入ってくるようになり、毎回わくわくしながら学びを続けています。習ったルワンダ語は、外に出かけた時に早速使おうと試みています。ただ一言ルワンダ語を使うだけでも相手の反応は違うものですね。それまで無表情だったお店のおばちゃんの顔が、急にニコニコ明るい表情に変わるのを何度も経験しています。その国の言葉を話すと言うのは、相手の心を解放させるものなのですね。どうぞ、これからもルワンダ後の学びが充実したものになるように、そうしてルワンダ人のよき友が与えられるようにお祈りください。

完

「佐々木さんを支える会」にご協力くださった方々です。 ありがとうございました。

Mr William Burras、「地球の子どもを応援する会」野澤一良、Mrs. Sibon Fisher、相川好美、相浦光教会女性会、相原すみ江、相原美穂子、青野大湖、秋山忠正、秋山信夫、秋山陽子、彰栄保育福祉専門学校、浅野孝子、浅野陽子、旭川東光キリスト教会、芦屋キリスト教会、芦屋キリスト教会 女性会、阿世知隆、穴澤克朗・美穂、阿部義孝、天野五郎・文子、荒井亜紀、安藤 正、安藤栄二・せい子、安東努・聡美、安藤徳子、李 仁夏、飯田純子、飯田基子、飯野美代子、池田俊一郎・久美、石井須賀子、石井炬子、石橋裕子、石橋由美子、伊集院キリスト教会、石渡修司・路子、石渡伴子、磯貝瑠子、板井玲子、板橋成、市川幸郎・直子、市瀬登美、伊藤佳代、伊藤京子、伊藤清美・真宣・美与子・優、伊藤信夫・園子、伊藤美樹、伊藤光雄、伊藤康弘・紀恵子、伊藤勇二・清子、伊藤世里江、伊藤良子、稲生紀子、今給黎芳子、岩下一彦、植田葉子、上山由美子、白井愛子、梅北美智子、梅木芳昭、梅沢栄・雪子、梅野恵美子、浦田雅彦、浦野正子、江ヶ崎清臣・晴子、江口稔子、江崎恵子、榎本 譲、榎本佐智子、榎本みつ枝、江原 淳・都代子、胡子節子、園林栄喜・さゆり、大石咲枝、大内勝美、大草恵子、大久保おくづ、大蔵真由子、大崎典子、斎藤節子、大迫裕男・慈子、大谷心基、大谷貞夫・借子、大成芳美、大野節子、大野優子、大堀千鶴子、大矢公子、大家美和子、岡 久凱・恭子、岡田 久、岡田鏡子、岡田昌子、岡田有右・富美子、岡田百合子、岡部登美、岡村悦弥・律子、岡村千鶴子、岡本綾子、岡本幸代・金澤明子、小河義伸、小川智瑞恵、小川宏嗣・千絵美、小川美奈子、

萩原美世子、奥田智子、奥田知志、尾崎智子、小島桂子、小田桐智子、越智 満、踊 一郎、小野鈴子、小野原直子、小原清伍、小淵康而、小山清孝・節子・佳枝、柿園光恵、角田秀明、角野裕三、鹿児島リバイバルチャーチ・佐多洋明、梶井洋子・義郎、鍛冶田みどり、梶田洋子、霞ヶ丘教会、霞ヶ丘女性会、片山 寛、片山佳代子、勝政カツ、勝亦昭太、嘉手納つね子、加藤仁朗、加藤享・喜美子・加藤新、加藤誠・泉、加藤雄三、加藤米子、金井君江、金井利樹、金谷美津江、金子 敬・知子、金香萬壽子、金子恵子、金子佐枝子、金子聡子(代表)、金子純雄、金田聡子、甲斐秀昭・甲斐悦江、千坂直子、上前洋子、神谷武宏、神山 武、川崎 実、川崎国男、川崎多恵子、川崎バプテスト教会女性会、川崎光子、川城千穂子、川村邦彦、川村未子、神田英輔、関東学院野庭幼稚園、関東学院小学校清水 元、関東学院大学キリスト教と文化研究所、関東学院大学宗教教育センター、関東学院大学クリスマス実行委員会、関東学院大学チャプレン会、関東学院中学・高校香柏会、関東学院中学校・高等学校 校長先生、関東学院六浦幼稚園、菊池金子、菊池崇志、菊地フミエ、菊地るみ子、岸 照子、北 芳正、北島靖士・峯子、北田良雄、北原志津江、北道佳代子、衣笠詩子、木部暢子、木村公一、清岡道子、桐本恒雄、草野昌子、くずめよし、倉崎紀子、栗本高幸・祥子、栗山美和子、久留米キリスト教会、黒川文雄、黒田すず江、桑島澄子、桑原邦男・千代子、敬愛幼稚園・前田・原・藤木・平田、見城敬子、小泉栄子、河野忠功、古賀公一、国分キリスト教会、小平駿介、小林和子、小林とみ子、小林洋一、小張優子、牛坊千寿枝、駒崎 学、小松澤浩・一枝、小峯幸子、是枝和子、近藤聖香、近藤文子、財津たか子、斎藤和子、斎藤幸江、齋藤純子、齋藤信一郎・祥子、齋藤颯人、齋藤洋子、三枝智子、堺キリスト教会、坂岡英子、榊原恵子、坂田 創、坂部千鶴子、酒巻宏明・和美・アシュリー・ロバート・ミッシェル先生、酒巻正守・恵子、相良博志・けい子、左京貴子、作田松夫、佐久間好秋・栄子、酒向登志郎、佐々木敏郎・百合子、佐々木知子、佐々木宣子、佐々木道子、佐々木光子、佐々木靖・松子、笹田朋子、佐藤恵美子・他7名、佐藤幸子、佐藤静江、佐藤順子、佐藤忠道、佐藤忠道、佐藤信人・幸子、佐野静樹、鮫島奈穂子、猿田典子、塩山要子、茂木照夫、地頭園みち子、柴田将輝・咲良、島本暉子、清水ヶ丘教会海外宣教会、清水寿美子、清水聖子、清水日出子、下川迪子、下川詩子、下村昭子、城倉由布子、城野正興、白井愛実、白石治子、白井捷子、白井由季子、志良堂杏子、志良堂雅之、城井達男、城前和徳・光子、菅野ミエ子、菅野雄基、杉浦順子、杉本明子、杉山修一、勝呂祐康・泰子、辻子 実、鈴木 伸、鈴木恵美子、鈴木和子、鈴木冨子、鈴木三喜雄・聡子、鈴木重義、鈴木知子、鈴木俊子、鈴木春海、須藤伊知郎、須藤琢也、角野裕三、須山弘子、清珠京代表：田崎勝人、西南学院大学法学部、関京子、関田真雄、関山裕子、瀬戸口一彦、瀬村真司、仙敷妙子、仙敷眞代、川内キリスト教会、千田将馬・可奈、左右田理・淑子、左右田貞子、副島 勲、曾我和子、曾我美奈子、大富キリスト教会女性会(一粒の種会)、平良憲誠・民枝、平良仁志、高木伸江、高島赫子、高田紀行、高田まり子、高橋 麗、高橋香代子、高橋秀二郎、高橋良子、高向嘉昭、高柳美枝子、高山登美子、高良相子、高良研一、田口昭典、竹内勝敏・緑、竹内北子、武内進一、武野敏男・良江、武林真智子、竹村紀彦、竹山征子、田崎民雄、田代京子、田代保嗣、立川バプテスト教会女性会(代表仲川様)、田中和子、田中経彦・道子、田中瑞穂・由美子、棚橋信之、田辺貴美子、谷 邦彦、谷 洋、谷本 仰、谷本慶哲・はるみ、田淵 亮、多保田治江、田宮キヨ、田村水比古、丹 文子、中條智子・譲治、調子寛恒、丁野雅子、塚原好子、辻 キクヨ、辻 真理子、筒井恵子、堤 小百合、常廣澄子、鶴野博子、鉄井三千夫、寺園喜基、東京連合西地区女性会(井浦様)、堂前浩子、戸川和子、常盤台バプテスト教会、徳永紗希、戸田敦子、都所康子、富重江江子、富田愛世、外山貴子、豊永雅枝、鳥越明子・波奈、鳥越七郎、鳥越妙子、鳥山美恵、直井昭美、直津晴子、永井かよ子、仲尾次澄子、長尾澄子、長尾なつみ、中川幸子、長崎バプテスト教会女性の会、中島和子、長嶋五枝、長嶋美香、中嶋名津子、永瀬正臣・井置利男、中拂志津乃、中拂秀一、中原伸一郎、永久寿夫・加津巳、長久政子、長峯正一、中村悦子、中村支那子、中村典子、中村安夫・のり子、長山忠雄・晃子、中山久光子、鍋谷恵地子、成田ファミリー、西岡靖子、西川由希子、西沢好枝、西本玲子、西山しまお、日本バプテスト浦和キリスト教会、日本バプテスト小倉キリスト教会男性の会、日本バプテスト鹿児島キリスト教会、日本バプテスト道後キリスト教会、日本バプテスト四日市教会、布山修・淑子、根岸靖明、根来佐子、野口哲哉、野間涼子、計屋統信、萩原永子、萩原悦子、萩原和子、萩原小百合、萩原史子、羽仁麻梨子・良江、長谷川まゆみ、長谷幸雄、吐田敏宏、畑中幸子、波多義彦、服部アヤ子、花岡順子、羽矢和子、浜口紹子、濱野富美子、濱野道雄、早川恭子、早川耐子、早田美紀子、原 昌子、原 一子、原ゆみ子、原健太郎・瑞江、原田克己・泉、原田今日子、原田廣子、播磨 聡、播磨信子、坂東資朗、比嘉勇雄、東原順子、東八幡キリスト教会、比嘉貴子、樋口きょう、肥後留里子、平井一恵、平石京子、平塚敬一、平野利子、平野信子、蛭川 望、蛭川明男・潤子、広島キリスト教会少年少女会、広瀬敏彦・久子、深作京子、福井すずみ代、福岡国際キリスト教会、福岡西部バプテスト教会、福岡聖二、福田喜代子、福田みむろ、福田雄二・福田朝子、福永知子、福永保昭、藤井秀一、藤崎正・明美、藤沢バプテスト教会、藤城真美、藤田須美子、藤田英彦、ふじみキリスト教会、藤原信子、二村尚美、舟木洋子、船本実幸、舟木信太郎、古川 新、古川博子、古木徳子、古谷防府バプテスト教会マルタ・マリア会、北陸学院中学校、保崎清人、細井留美、保戸塚 仁、堀 達男、堀 政子、堀井隆子、堀山敬太郎・裕子、益 巖、前田千恵、牧 甫、牧ゆり、牧美子・本末教恵・西条千恵子・安藤美弥子、枕崎バプテスト伝道所、正木寿子・澤村重子、鋤柄文代、松井清、松木静枝、松隈 潤、松下七郎、松見 俊、松村豪一・松村寿子、松村信活、松村誠一、松村輝隆、松村弘・ヤス子、松村祐二郎、松本昌子、松本素代美、的埜陽子、真部恵子、丸山節子、馬渡健太郎、三井純人、三浦良平・高子、三沢和子、瑞穂キリスト教会女性会、水戸バプテスト教会 女性会、南出浩司・薫、箕輪治子、三原正司、三原ミヨ、宮井武恵、都 道子、都城キリスト教会、宮崎伸子、宮下ゆかり、宮治はるか、宮原美智子、宮邊悦子、向井直子、麦野 賦、武藤朝惠、村上千代、村上康子、村勢欽也、村瀬幸子、村勢敏郎・美智子、村松久太郎・直美、姪浜バプテスト教会、目白ヶ丘教会、目白ヶ丘教会・ルワンダ会、本井博也・智美、本井博也・智美、森下恵仁・牧子、森島牧人・恵、矢島清子、矢島邦典、矢島宏樹、八十島章子、八十島光子、矢田部康夫・知奈美、矢野 満、矢野美保子、矢野由美、藪内こずえ、矢部楠緒枝、山岡恵理香、山川明美、山岸悦子、山口邦子、山口風子、山口正雄、山口要子、山崎元明・慶子、山崎良子、山下 保・一恵、山下誠也・みつ、山とし子、山田雅之・みどり、山時松江、山本滋人、山本俊正、山本智子、山本長邦・律子、山本泰雄、湯川孝子、湯田朋子、湯本明子、百合丘キリスト教会、洋光台教会小鳩会、洋光台教会小羊会、洋光台教会青年会、横尾喬子、横川征志郎、横浜 J O Y キリスト教会(菊池康子)、横浜信三郎・純子、横浜戸塚バプテスト教会、横山一男・保子、吉高叶・路、吉武和彦・恵子、吉田晴彦・美奈子、吉田律子、吉野輝雄、吉野洋美、吉原克弥・美玲子、吉原千恵子、吉松 徹、米島洋子、米田景子・塚原たづ子、李 龍光、力武恵子、立教女学院、立教女学院藤の会、立教女学院中学校、リデア・ハンキンス、龍 尚希、レインボー・チャペル港北、若林英典、和気三郎・絢子、和佐野健吾、和田京子、渡辺 亶、渡辺エリ子、渡辺くに子、渡邊邦子、渡辺初美、渡辺絃光・渡辺和子、渡辺祐子、綿引愛子